

※ 本発言は平成 17 年 10 月 12 日に開催されたプレカット協会・CEDXM 評議会打ち合わせ会議における発言を編集したものです。

### ● CEDXM活用モデル工場事業の意味 (CEDXM広報委員)

実際にどう捉えられているかという、恐らくプレカット協会さんも思われているんじゃないかと思いますが、ほとんどのプレカット工場が言われる言葉として「工務店や設計事務所の入れた伏図には手を入れている」と。「そのままでは家は建たない」という回答の方が多い。

意匠CADとのデータ連動ということに対して動きが遅れていたのは、そこが一番大きいのではないかと思っている。

先程、間取りの話があったが、向こう（意匠CAD側）からFAXや図面で来たもの自身があてにならないデータであることが多いというのが今までの流れだったと思う。

そこをもっとうまくしていかなければいけないということを、世論の声としてどう広げることかということもあるが。

私どもとしては、お客様である工務店やプレカット業者から、「なんでこれができないのか」という声がどれだけ上がってくるかというのが一つの判断基準となっている。そういったこともあるので、「必要だ」という声がどれだけ上がるかというのが大きなニーズだと思っている。

それがこういう形で取り組まれていくのであれば、各メーカーも対応していくだろう。

もちろん、開発する前に社内で検討はするし、極端に言うと売れるか売れないかという判断になる。できるかできないかと言えば、まずできる。売れるかどうかというところで、ニーズはあるだろうけれど、そのニーズに開発を投下した分ペイできるかということは経営戦略として考える。それは内部の声ではなくて外部の声をどう拾うかになる。

一番いい例は、性能表示に関して。性能表示に関してできるかできないかは、最初に起案が出た段階で検討している。で、できると。性能表示が発表される前から開発に入っている。なぜか。法規的に拘束されるものだから、対応されるところは必ず買うという予測がつく。それがあるので先行的に開発していた。

では、CEDXMはというと、まず取り組み。掃き出しは必要だし、やっていかなくてはいけないということで、第1段階は取り組んだし、開発もした。ではフィードバックについては、これがどれだけ根付くかを見ないと、おそらくすぐに着手はできないだろうというのが弊社の見方である。

### ●プレカット工場側からのCEDXM活用モデル工場事業の課題（プレカット協会）

やるのはやぶさかではないが、問題はエンドユーザーである工さん、出す側がどの程度協力していただけるのか。

先程の、プレカット工場がもらう「入り」の方はもう整っている。こちらからエンドユーザーに出すシステムはこれからだが、例えば、B社さんにやれやれと言ってもなかなか難しい。

というのは、最終的に出す段階ではプレカット工場の技術レベル、CADの操作レベルがポイントになってくる。いくらいいソフトを持っていても、使う側がうまく使えなかったらたいした物は出ていかない。

だからある程度のものは作っていただくにしても、最終的に工務店に出るデータというのはプレカット工場がこのソフトをうまく利用して出せるかということになる。これはB社さん側だけの問題ではなく、プレカット工場側が、半分かそれ以上のウエイトを置かないと、出て行かないのではないかと思っている。

### ●評議会側からのCEDXM活用モデル工場事業の課題（CEDXM広報委員）

現実に出してもらおうということは、工務店にとってもプレカット工場にとってもメリットがあると思っている。

例えば、性能表示だなんだと言ったときに、構造材のデータが出て読み込めるということは、構造計算をお客さん側がしてくれるということになるから、構造計算に関する責任が、プレカット側からかなり軽減される。

ただ、そのためのデータを必ず作らないといけない、自社でシミュレーションしてから出さないとお客さんは受け取ってくれない、ということも絡んでくるんが。

### ●プレカット協会内のCEDXM評価（プレカット協会会長）

CEDXMはある程度の完成に近づいているという話を聞いている。ある程度は使えるところまで来ているようなので、あと1～2割ということであれば、プレカット協会として協力することができるのではないかとは思っている。

当協会内でCEDXMの説明をすると、できればいいと言う人は多い。

しかし、本当にこれをオープンにするのか、というところで半信半疑の人が多い。

将来考えることと、皆さんの中で現在協力していただいている営業CAD側とプレカット側、またはプレカット側同士のソフトの交換とか、CEDXMということでなく、その中身について、いろいろな応用ができないだろうという不信感がプレカット協会内にある。

#### ●評議会側からのCEDXM活用モデル工場事業の課題（CEDXM開発委員）

プレカット協会内でモデル工場を公募するとしても、絶対条件が付くと思う。

まず、プレカット工場が、既に読み込みオプションのあるプレカットCADをお持ちであること、さらに、そのプレカット工場が主に取引されている業者が、掃き出し可能な意匠CADを既に導入済みであることが絶対条件になるのではないかな。

どこも様子を眺めているメーカーが多い。関心は持っているけれど、うまく行くなから乗りたいというような。だから、このまま動きがなくなってしまうと止まってしまう。

A社にしろC社にしろ、ここまで協力していただいて、それに林野庁が補助金を出して、基本原則はできあがった。

ただ応用ができてない。これから応用問題をどうしていくかを取り組んでいって、効果を見せていかないといけないのではないかな。

#### ●CEDXM活用モデル工場事業のメリット（CEDXM広報委員）

運用の部分というのは、CEDXMを介さなくても、意匠CADとプレカットCADの連携ということを前提として取り組みをされている企業って結構ある。

だから、極端に言うと、それがCEDXMに取り替わるだけで、実際に効果があるかないかと言えばあると思っている。

それがなんでクローズドになるかという、やはりノウハウの部分。企業戦略の一つになっているので、そこでメリットを得ている方は公開しない。

また、先程把握されていないと言ったが、把握しているところは何ヵ所もある。それは実証実験として、お客様と話をしているところ。そうでない部分は、やはり自社のメリットとして内在しようということがあるので、把握できていない。

逆に今回モデルケースとしてやっていただけて、それに対してこういう効果があり、ここが大変で、こういう形でできた、ということが、公開できる情報として出るならば、非常に大きなメリットがあるだろう。

みんなが二の足を踏んでいるのは「メリットはあるだろうけど、実際はどうなの？」と

いうこと。それを言われて「いや、〇△さんではこういうメリットがありましたよ」とは相手の会社の情報だから絶対に言えない。

そういう意味では、どういうメリット・デメリットがあって、どういうところで苦勞するということが一つの道筋として出て、情報を共有できるなら非常に大きなメリットになると思う。

#### ●CEDXM活用モデル工場事業の問題点（CEDXM開発委員）

成功例、失敗例もあるかもしれないが、モデル工場を公開することによって、ここまでのレベルであれば使えるんだと。そういうPRに使うということであれば、1社だけでなく複数社にお願いしたい。

また、実例として不具合でも使い勝手でも「ここを直してほしい」とか、そういうものが上がってくるのであれば、開発委員会の今後の動向も見えてくるかと思う。

#### ●ドキュメントづくりを優先的に（委員長）

モデル工場をつくるのは同意するとしても、そう簡単にはいかない気がする。

PRの方針をきちんと立てた上でやらないと、消耗するだけで終わってしまう。

受け取り側だけでなく、戻す方もやるとすると、流す方の工務店がどういうCADを持っているかということでも正解は違うし、工務店のタイプにもよると思うのだが。

工場内でいろいろな形の単能機が導入されているところで動くとしたら、それは非常にコストダウンにつながる。

意匠CADからもらうだけではなく、単能機相互のやりとりについては、かなりやっているところもある。

以上